

(社)日本原子力学会 標準委員会 基盤・応用技術専門部会
第23回廃止措置分科会 (R3SC) 議事録

1. 日時 2011年2月16日(水) 10:00~12:00
2. 場所 第5東洋海事ビルA+B会議室
3. 出席者(敬称略)
(出席委員) 岡本主査、田中幹事、井口、石原、梶谷、川崎、北山、工藤、軍司、高木、丹沢、初岡、福島、見上、森本、山口(16名)
(代理出席委員) 福谷(小山委員代理)、湊(富永委員代理)(2名)
(欠席委員) 武部、杉山、高見、松原、村上(5名)
(常時参加者) 石倉、金澤、蒲生、北島、新崎、鳥居、中村、増田(8名)
(欠席常時参加者) 今川、岩田、片桐、北村、中辻、堀川(6名)
(傍聴者) 青木、渥美(2名)
(事務局) 岡村
4. 配付資料
R3SC-23-1 第23回廃止措置分科会 人事案件
R3SC-23-2 第22回廃止措置分科会(R3SC)議事録(案)
R3SC-23-3 第10回基盤・応用技術専門部会議事録(案)
R3SC-23-4 標準委員会活動状況
R3SC-23-5-1 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画:20XX」標準委員会決議投票の結果について
R3SC-23-5-2 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画:20XX」標準委員会書面投票対応案
R3SC-23-5-3 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画:20XX」改定案
R3SC-23-6-1 「原子力施設の廃止措置の実施:20XX」基盤・応用技術専門部会書面投票対応案
R3SC-23-6-2 「原子力施設の廃止措置の実施:20XX」の改定案
R3SC-23-6-3 「原子力施設の廃止措置の実施:20XX」新旧対比表
R3SC-23-7-1 【中間報告】「試験研究炉等の廃止措置の計画:20XX」改定について(A3版)
R3SC-23-7-2 【中間報告】「試験研究炉等の廃止措置の計画:20XX」新旧対比表
R3SC-23-8-1 「原子力発電所廃止措置時の耐震安全」に関する標準策定について
R3SC-23-8-2 「原子力発電所廃止措置時の耐震安全」標準策定の概要
R3SC-22-参考1 廃止措置分科会委員一覧

R3SC-22-参考2 廃止措置耐震安全作業会委員候補一覧

5. 議事

議事に先立ち、分科会開催時点で委員 22 名中代理出席を含め 17 名が出席しており、分科会成立に必要な委員数（15 名以上）を満足していることが報告された。

(1) 人事案件

事務局より R3SC-22-1 に基づいて、1 名の委員の退任が報告され、2 名の新たな委員候補が推薦され、決議の結果、選任された。また、5 名の常時参加者登録希望が紹介され、決議の結果、承認された。

① 委員の退任(敬称略)

富永 研司 (株)日立製作所

② 委員の新任(敬称略)

山口 彰 大阪大学

湊 博一 日立 GE ニュークリア・エナジー (株)

③ 常時参加者の登録(敬称略)

蒲生 秀穂 ((株)日立製作所)

岩田 竹広 (日本原子力発電(株))

中辻 雅之 (日本原子力発電(株))

鳥居 和敬 (清水建設(株))

新崎 雅志 ((株)原子力エンジニアリング)

(2) 前回議事録(案)の確認

前回議事録案(R3SC-22-2)が紹介され承認された。

(3) 基盤・応用技術専門部会活動状況

第10回基盤・応用技術専門部会議事録(案)(R3SC-22-3)が紹介された。

(4) 標準委員会活動状況

標準委員会活動状況(R3SC-22-4)が紹介された。

(5) 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」の標準委員会書面投票対応

田中幹事よりR3SC-22-5-1～3によって、標準委員会書面投票の結果、その際のコメントへの対応案及び本報告案が説明された。審議の結果、本日のコメントへの対応(案)は一部修正の上了承され、メールでコメントをした委員に送付することとなった。主な質疑等は次の通りである。

- ・ 51 番のコメントで、“実施時期に考慮した上で”と、“実施指示を考慮して”の

意味が変わるものではないとの回答をしている。“配慮”であればそれで良いが
“考慮”の場合は“実施時期を”とした方が良いのではないか。

→ 検討する。

- ・ 3番のコメントで、気象条件については、できる限り最新のものを使用する、と変更しているが、言い過ぎではないか。望ましい、程度ではどうか。

→ そもそもコメントの趣旨は、E.2.5.4とF.6.4の表現を統一せよとのこと。どちらかに統一すれば良い。

→ “気象条件については、供用期間中のそれと同じ条件を用いる。なお、気象データは最新のものを使用することが望ましい。”程度ではないか。

- ・ 附属書（参考）の冒頭に、“標準の一部ではない”との表現があるが、“規定の一部ではない”に修正すること。
- ・ コメント回答については、コメント者に事前に送付して確認すること。

(6) 「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」の専門部会書面投票対応

森本委員から、R3SC-23-6-1～3を用いて、「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」の基盤・応用技術専門部会書面投票の結果並びにその際のコメントへの対応案が説明された。審議の結果、コメント対応案は一部修正の上了承され、次回基盤・応用技術専門部会に報告することとなった。主な質疑等は次の通りである。

- ・ 附属書K等の図表の注記はどのような意味か。気になる。

→ オリジナルの図表のテキスト部分を今回入れ直しており、その際一部表現を見直したためこのように注記を入れたもの。

→ 参考文献のところに記載してはどうか。

→ 拝承。

- ・ 3番のコメント回答は良くない。4.3は廃止措置の留意点であり、線量目標値のところならALARA原則に合わせるのが良いが、廃止措置ではリスクのレベルが変化することを考慮しなければならないので、安全なレベルの方が良いのではないか。

→ 元々は運転中と同じレベルの中で工事するという。一般的な表現に合わせたもの。

→ 実用炉の廃止措置の計画では少し違った表現になっている。

→ 計画の表現に合わせること。

→ 拝承

- ・ コメント回答については、コメント者に事前に送付して確認すること。

(7) 「実用発電用原子炉等の廃止措置時の耐震安全」に関する標準策定について

森本委員から、R3SC-23-8-1を用いて、「実用発電用原子炉等の廃止措置時の耐震安全」に関する標準策定の計画及び作業会の設置提案が説明された。引き続き、鳥居常時参加者

から、R3SC-23-8-2を用いて標準策定の概要が説明された。審議の結果、作業会の設置並びに作業会委員、常時参加者が承認され、作業会にて標準策定作業を開始することとなった。主な質疑等は次の通りである。

- ・ スライド8の重要度分類の表は、インベントリで分類したものと思われるが、除染等が終了すればクラスを変えることも考えられるので、時間的な概念を記載した方が良い。
 - スライド12で一部記載しているが、今後議論していく。
- ・ スライド26にBクラス機器とCクラス機器の被ばく線量が記載されているが、線量によるクラス分類はこれまで行われていない。注意が必要。
 - 単にインベントリに応じてこのような評価結果になるというもの。そのような趣旨ではない。

(8) 今後の計画について

田中幹事より、3/4に基盤・応用技術専門部会、3/10に標準委員会が予定されており、「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」については標準委員会にコメント対応を報告後、公衆審査に移行する見通しであること、及び「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」については専門部会にコメント対応を報告後、標準委員会に本報告して書面投票に移行する見通しであることが説明された。

(9) 「試験研究炉及び核燃料取扱施設等の廃止措置の計画：20XX」について

田中幹事から、R3SC-22-7-1を用いて、「試験研究炉及び核燃料取扱施設等の廃止措置の計画：20XX」案の概要が紹介された。審議の結果、現在先行して策定している「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」との主な相違点についてとりまとめた説明資料を別途作成し、メール審議にて標準委員会への中間報告を行うか決めることとした。

(10) その他

- ・ 次回分科会は、5月下旬とし、別途調整することとした。

以上